

本要領書は「純いぶし」専用です。

「純いぶし」は働き寸法が陶器瓦と異なります。
ご注意ください。

屋根材 粘土瓦 防災平板瓦



第2回改定版

株式会社 鶴弥

注意事項

- ・本資料は専門工事業者（瓦屋根）を対象としています。
- ・施工や納まりの方法については、当社製品の機能および性能が確保できるように、2021年改訂版瓦屋根標準設計・施工ガイドラインを遵守し、本資料をご参考の上、元請様や工事店様のご判断、責任のもと、方法を決定し、施工を行って頂きますようお願い致します。
- ・本資料は当社の標準施工要領を示すもので、製品品質や施工品質を確保するための方法として、野地が構造用合板12^{ミリ}の代表的な例を記載しています。施工や納まりの方法、使用部材を限定するものではありません。地域・ハウスメーカー毎に施工方法や使用部材が異なる場合があります。
- ・当社は本資料の発行・公開をもって、元請様や工事店様に対し、施工方法について何らかの指導や監督を行うものではありません。また、当社が施工保証を行うものでもありません。施工方法や施工保証につきましては、元請様や工事店様の責任において施主様へご説明頂きますようお願い致します。
- ・本資料は法改正、商品改良のためなどにより予告なく変更する場合がありますので、施工の際には本資料が最新であることをご確認ください。
- ・住宅金融支援機構の融資を受ける住宅の場合は、同機構の定める「住宅工事仕様書」に従い、工事を行ってください。
- ・住宅瑕疵担保保険の保険対象住宅は、住宅瑕疵担保責任保険 設計施工基準に従い、工事を行ってください。
- ・本資料の著作権および所有権は、株式会社鶴弥が所有しております。本資料の全部又は一部を当社の許諾なく複製、改修したりすることは著作権法上禁止されております。

改定内容

【第2回改定版】 2025.11

- ・注意事項に7行目に「野地が構造用合板12^{ミリ}の」を追記
- ・標準屋根勾配とその流れ長さに2.0寸勾配と粘着層付ルーフィングの項目を追加
また、それぞれの流れ長さについても変更
標準屋根勾配及びその流れ長さの【注】に、「基準風速40m/s以上の地域や同様な暴風雨が予想される地域、その他特殊な環境の地域では、施工店様にご相談の上で運用してください」を追記
- ・下葺工事のページ追加
- ・片流の納まりに2.0寸勾配の例を追加
- ・その他、誤記訂正など

1. 製品仕様

製品仕様

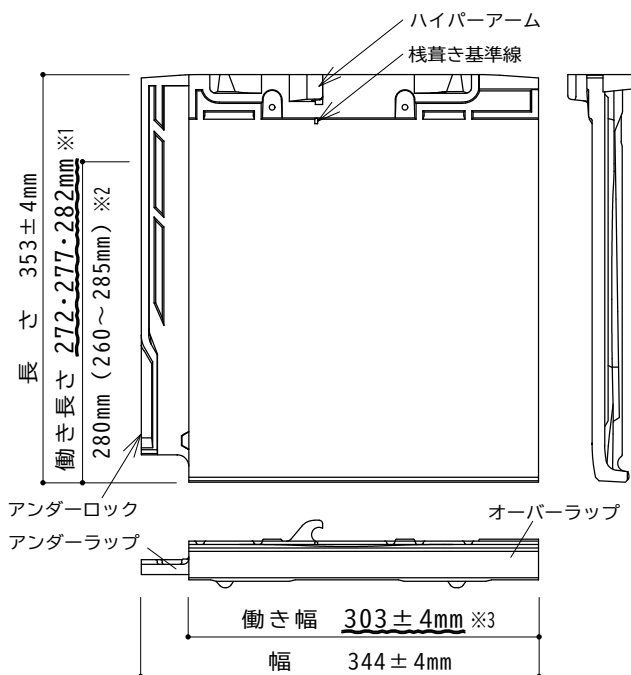
スマート 純いぶし 棧瓦

瓦の種類	F形防災瓦
長さ	353±4mm
幅	344±4mm
働き長さ	寄棟<廻隅瓦・谷瓦使用の場合>※1 4.0寸 272mm 4.5寸 277mm 5.0寸 282mm
	切妻<上記以外の場合>※2 280mm (260～285mm)
働き幅	303±4mm ※3
重量	3.6kg/枚 (43.2kg/m ²)
葺き枚数	40枚/坪
梱包枚数	324枚/パレット (4枚/束)

※1 廻隅瓦・谷瓦使用の場合、屋根勾配によって働き長さが固定されます。

※2 働き長さは260～285mmの調整が可能です。範囲内で流れの瓦割付ができます。

※3 働き幅の標準値は303mmです。瓦割付をする場合、現物で寸法確認し割付を行ってください。



標準屋根勾配及びその流れ長さ

標準屋根勾配		2.0/10 片流れ 切妻のみ	2.5/10	3.0/10	3.5/10	4.0/10	4.5/10	5.0/10	6.0/10
その 流れ長さ	通常 ルーフィング	6m	10m	12m	14m	16m	19m	22m	28m
	粘着 ルーフィング	10m	16m	20m	24m	28m	32m	36m	44m

【注】双方の数値は国内大部分の地域で安心してお使い頂くための標準値です。

基準風速40m/s以上の地域や同様な暴風雨が予想される地域、その他特殊な環境の地域では、施工店様にご相談の上で運用してください。

【注】粘着ルーフィングは当社指定品同等以上をご使用ください。

【注】廻隅瓦・谷瓦は4.0/10～5.0/10の対応となります。

ご使用にあたって

粘土瓦は天然材料を使った自然素材であるため、下記の要因が発生する場合がありますが、製品欠陥ではなく粘土瓦製品としての一般的性質であり、屋根材としての品質上の問題はありませので安心してご使用ください。

■いぶし瓦のご注意

指紋・油などが付くと取れにくいので素手でのお取扱いはご注意ください。

また、養生テープのご使用はいぶし被膜が剥がれますので、ご注意ください。

■色ムラ

粘土成分の違い、気圧など気象条件による焼成窯内雰囲気、焼成位置の変化により、微妙な色ムラが発生している場合があります。

■ネジレ、寸法

焼き物特有の若干のネジレ、寸法のバラツキにより施工時に瓦と瓦の間に若干の隙間、段差が発生することがあります。

■経年変化

いぶし瓦は経年変化による黒ずみなどの色変化が発生する場合がありますが、これは自然素材であるいぶし瓦特有の現象であり、品質の劣化を伴うものではありません。

■表面の鉄分について

いぶし瓦は粘土に含まれる鉄分が瓦表面にある場合、雨水による点状の赤錆が発生する場合がありますが、これは品質的な劣化ではなく、表面層での一時的な現象であり、拡大したり、また内部に進行するものではありません。

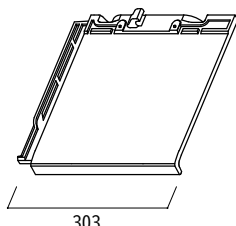
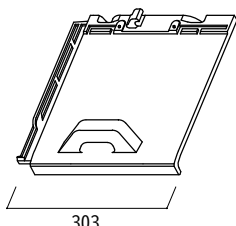
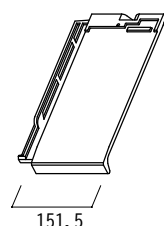
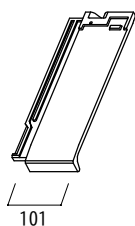
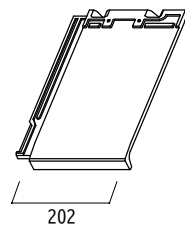
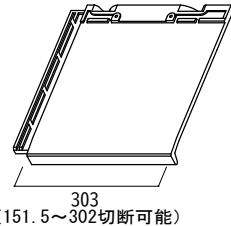
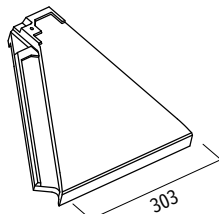
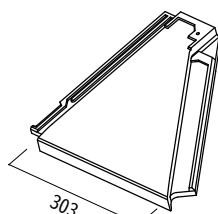
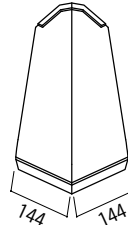
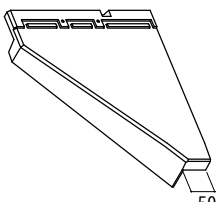
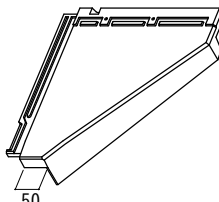
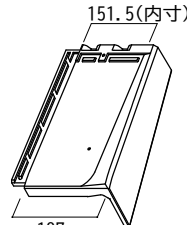
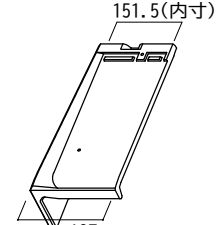
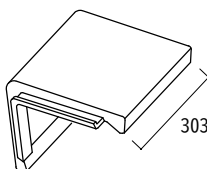
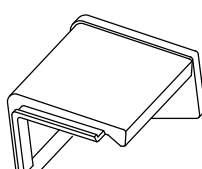
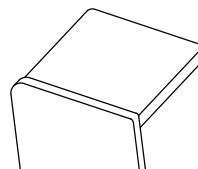
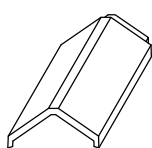
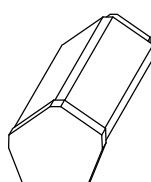
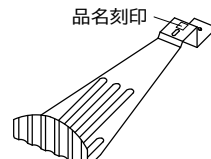
適用範囲

建築物の条件を確認し適用範囲の確認を行ってください。

適用範囲についてはスマート施工要領書「11. 瓦の緊結方法に関する基準 (P74～77)」を確認してください。

この施工要領書は抜粋ですので、細かな施工方法、注意等については標準のスマート施工要領書を参照してください。
ただし、棧瓦、役瓦、瓦割付の寸法が異なりますので注意してください。

2. 製品リスト瓦 通常のスマート製品とは寸法が異なりますので注意してください。

スマート 純いぶし									
品名	コード	スマート棧瓦	78101	スマート雪止（角）	78107	スマート半瓦	78103		
形状・寸法									
品名	コード	スマート102特棧瓦	78102	スマート204特棧瓦	78106	スマート調整瓦	78410		
形状・寸法									
品名	コード	スマート廻隅右	78412	スマート廻隅左	78413	スマート廻隅中4～5寸	78411		
形状・寸法									
品名	コード	スマート谷瓦右	78104	スマート谷瓦左	78105	スマート一体袖右	78414	スマート一体袖左	78415
形状・寸法									
品名	コード	紐無片流冠（純いぶし）	71809	紐無片流れ冠止 タマブチ付（純いぶし）	71928	紐無片流れ冠止 タマブチ無（純いぶし）	71929		
形状・寸法									
品名	コード	紐無三角冠	71802	紐無三角止 タマブチ付	71915	スマート雪止金具	80723		
形状・寸法									

3. 下葺工事

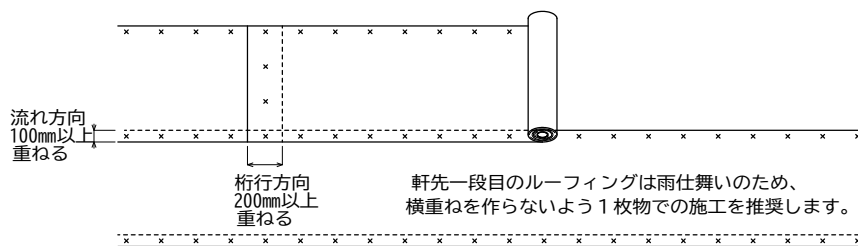
ルーフィングの張り方

- ・ルーフィングは改質アスファルトルーフィング以上又は快適ロール（透湿ルーフィング）を使用してください。
- ・施工要領については、瓦屋根標準設計・施工ガイドラインおよび住宅瑕疵担保責任保険の設計施工基準等に従ってください。
- ・緩勾配の場合は各ルーフィングメーカーの施工要領に準じた施工を行ってください。
- ・快適ロールは透湿ルーフィングです。透湿ルーフィングの施工要領に従い、3寸勾配以上で使用してください。

【改質アスファルトルーフィングの場合】瓦屋根標準設計・施工ガイドライン仕様

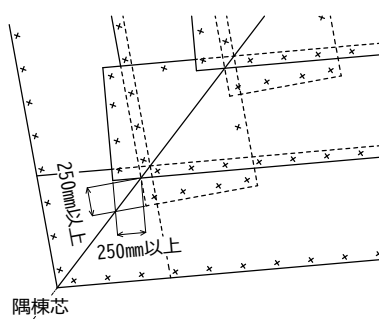
【平部】

流れ方向100mm以上、桁行方向200mm以上重ねる

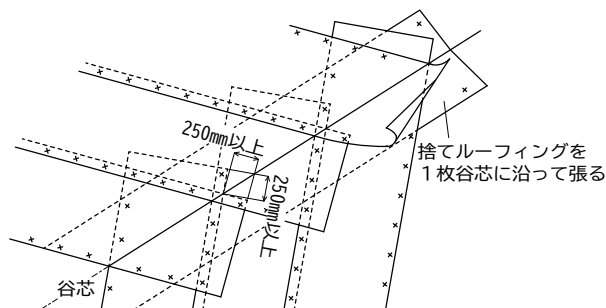


部位	大棟	隅棟	谷	壁際
重ね寸法・立ち上げ寸法	棟芯より250mm以上重ねる	水下側で250mm以上重ねる	捨てルーフィング＋水上側で250mm以上重ねる	250mm以上立ち上げる

【隅棟】



【谷】



【粘着層付改質アスファルトルーフィングの場合】各部位の納まりについては非粘着品と同様です。

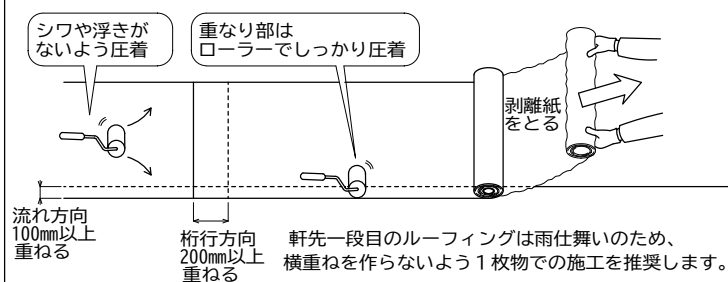
- ・各ルーフィングメーカーの施工要領に準じた施工を行ってください。

当社指定品

メーカー名	商品名
日新工業(株)	カスタムライト
七王工業(株)	エコタック
田島ルーフィング(株)	タディス セルフ
	タディス セルフ アーマー
	アンダーガムロンK
	アスヤンSB200
静岡瀝青工業(株)	プロタイト
ガムスター(株)	Qタック10
	T2

【平部】

流れ方向100mm以上、桁行方向200mm以上重ねる



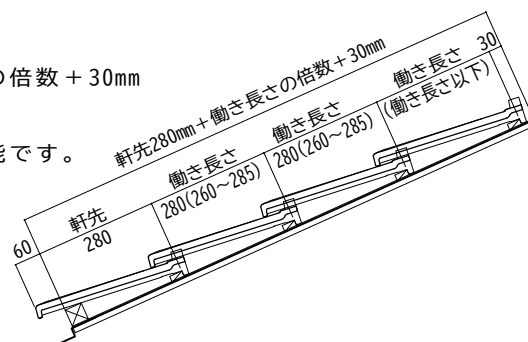
4. 切妻屋根の瓦割付寸法 通常のスマート棧瓦と寸法が異なりますので注意してください。

瓦割付寸法

- ・野地板調整など瓦の割付をする場合は下記の寸法によって割付してください。

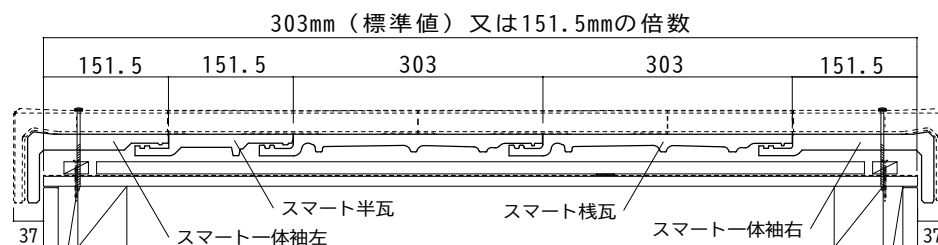
【流れ方向】

- ・野地寸法は、軒先280mm（瓦の出60mmの場合）＋働き長さの倍数＋30mmで決めてください。
- ・働き長さの標準値は280mmですが、260～285mmの調整が可能です。
切妻屋根（廻隅瓦・谷瓦を使用しない）の場合は範囲内で流れの瓦割付ができます。
- ・割付をしない場合は棟際の棧瓦を切断して調整してください。

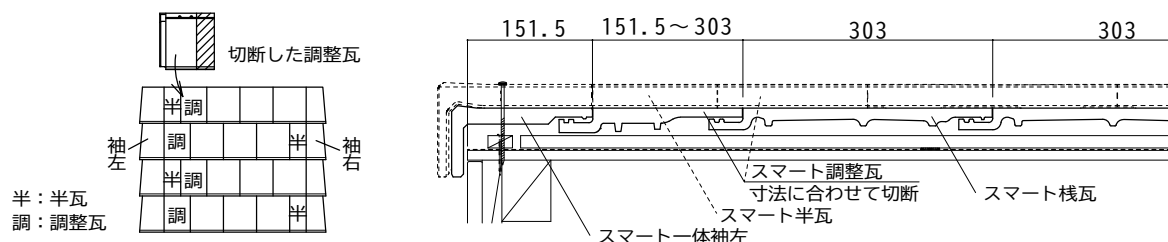


【桁行方向：切妻】

- ・野地寸法は、303mm（標準値）又は151.5mmの倍数で決めてください。
- ・働き幅の標準値は303mmですが、瓦割付をする場合、現物で寸法確認し割付を行ってください。

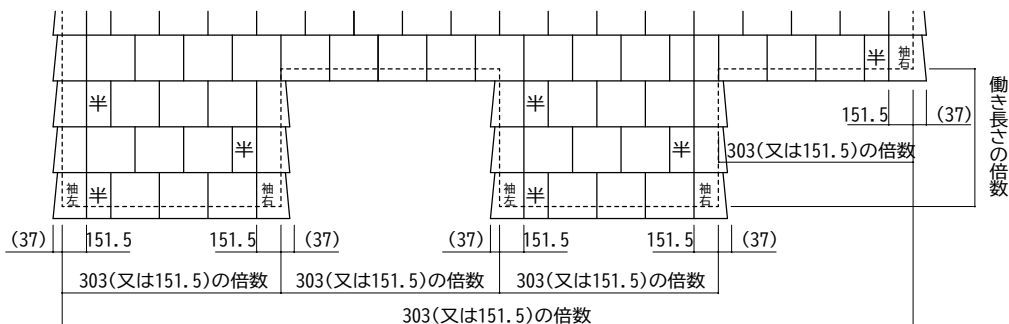


- ・割付をしない場合は調整瓦を使用して桁行寸法を調整してください。

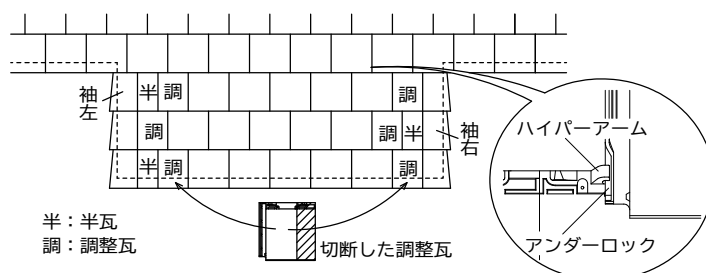


【すがり部：切妻】

- ・流れ方向は働き長さの倍数で決めてください。
- ・桁行方向は303mm（又は151.5mm）の倍数で決めてください。



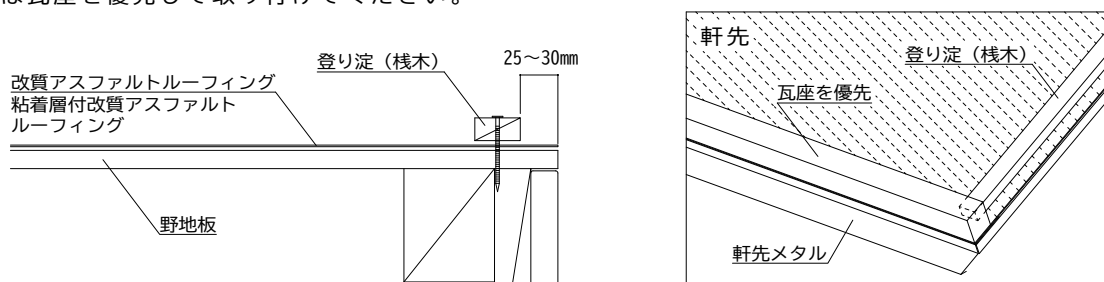
- ・割付をしない場合はすがり部は調整瓦を使用して、桁行寸法を調整し、ハイパーアームとアンダーロックがかみ合うように施工してください。



5. 切妻屋根の施工－1

袖部－下地納まり

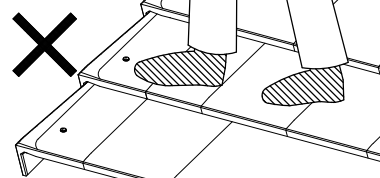
- ・破風板は立ち上げず、野地端から25～30mmの位置に登り淀（桟木）を取り付けてください。
- ・軒先は瓦座を優先して取り付けてください。



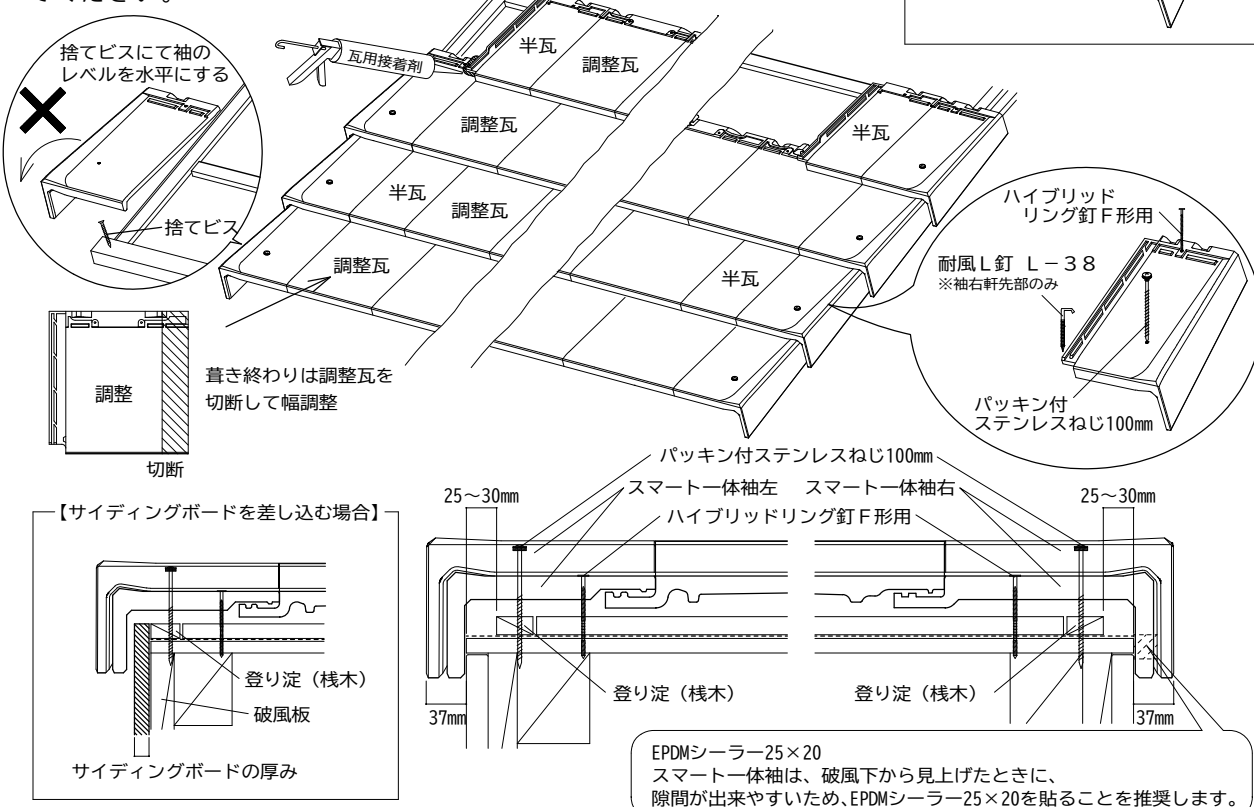
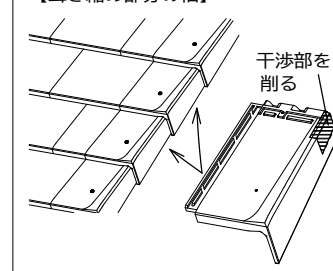
袖部－瓦の施工

- ・角はありませんので、軒先も一体袖を使用してください。
- ・一体袖はハイブリッドリング釘F形用1本と、パッキン付ステンレスねじ100mm1本で固定してください。
- ・軒先の一体袖右は耐風L釘 L-38を追加し、固定してください。
- ・軒先の一体袖が外側に転ばないように捨てビスを打ち、一体袖を水平に取り付けてください。
- ・瓦の割付を行っていない場合、葺き終わりは調整瓦を切断して幅調整を行ってください。
- ・ハイパーアームの掛からない葺き終わり側の瓦は、ハイパーアームを除去し、瓦用接着剤又はハイパーアーム金具にて補強してください。
- ・破風板にサイディングボードを差し込む場合は、破風板面と一体袖瓦取り付け面の間を、ボードの厚み以上確保するように注意してください。
- ・一体袖を270mm未満に葺き縮める場合、葺き縮め部分の一体袖同士が干渉し合うため、尻部の上面や側面の干渉している部分を削り施工してください。

【踏み割れ注意】施工後にスマート一体袖、半瓦、調整瓦の上にのらないでください。



【葺き縮め部分の袖】



EPDMシーラー25×20
スマート一体袖は、破風下から見上げたときに、隙間が出やすいため、EPDMシーラー25×20を貼ることを推奨します。

5. 切妻屋根の施工－2

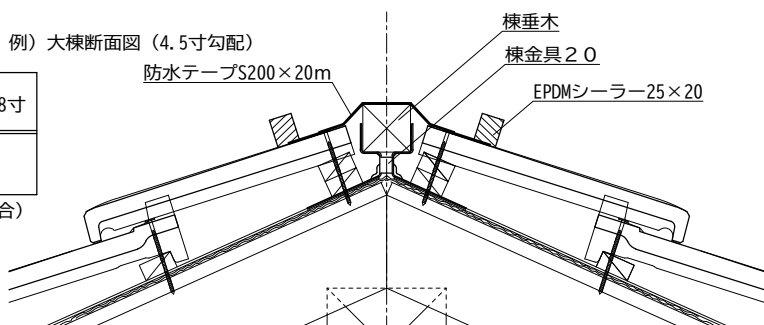
スマート一体袖 大棟部－防水テープ・シーラーの取り付け

- ・棟金具は屋根勾配に合わせ、下表のものを使用してください。スマート一体袖の大棟は冠瓦のレベルを
棧瓦で取りますので、棟金具の高さは低く設定されています。
(冠瓦のレベルを垂木で取る場合は標準のスマート施工要領書を参照。)
- ・棧瓦を棟際まで施工してください。
- ・棟垂木を棟金具に固定し、棟垂木の上に防水テープS200×20mを貼ってください。
- ・防水テープの端に半分程度かかるように、EPDMシーラー25×20を貼ってください。
- ・湿式（シリコン入南蛮しっくい）での施工も可能です。

【棟金具設定高さ】

屋根勾配	2寸	2.5寸、3寸	3.5寸～5寸	6寸～8寸
棟金具 高さ	40	30	20	0

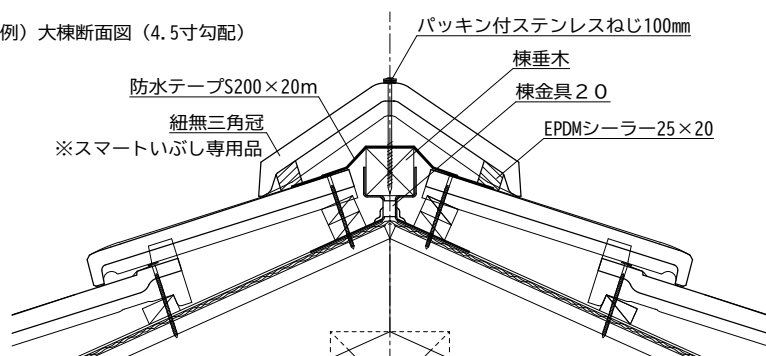
(棟垂木42×42の場合)



スマート一体袖 大棟部－冠瓦の施工 冠瓦（紐無三角冠）はスマートいぶし専用品です。

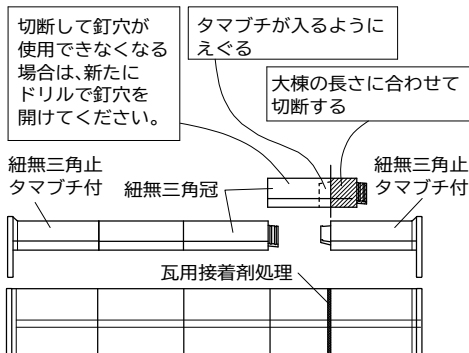
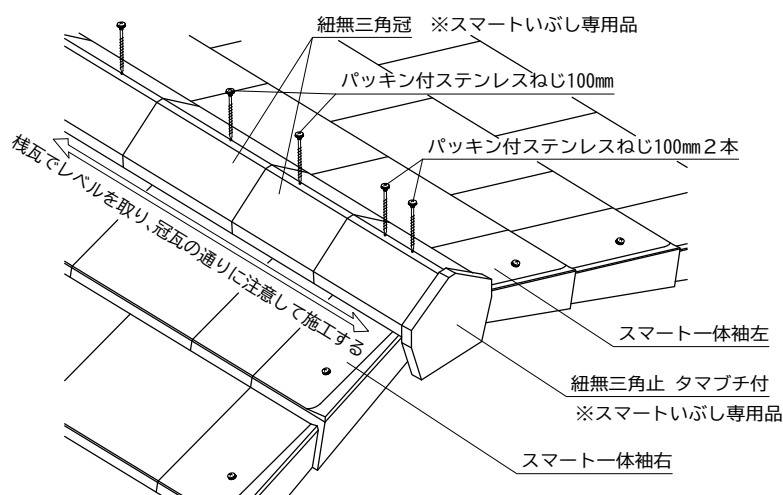
- ・紐無三角冠は棧瓦でレベルを取ります。冠瓦の通りに注意して施工してください。
- ・紐無三角冠は棟芯に合わせて並べ、パッキン付ステンレスねじ100mm1本で固定してください。
- ・切断した紐無三角冠も必ずパッキン付ステンレスねじ100mm1本で固定してください。
- ・巴は紐無三角止 タマブチ付を使用し、パッキン付ステンレスねじ100mm2本で固定してください。
- ・反対側の紐無三角止 タマブチ付は、紐無三角冠のタマブチを切断し、内側をえぐり、紐無三角止 タマブチ付のタマブチが入るように施工してください。

例) 大棟断面図 (4.5寸勾配)



冠瓦のレベルを棧瓦で取る場合は
パッキン付ステンレスねじ100mm
必ず使用する。

(短いものを使用すると
固定力不足のおそれがあります。)



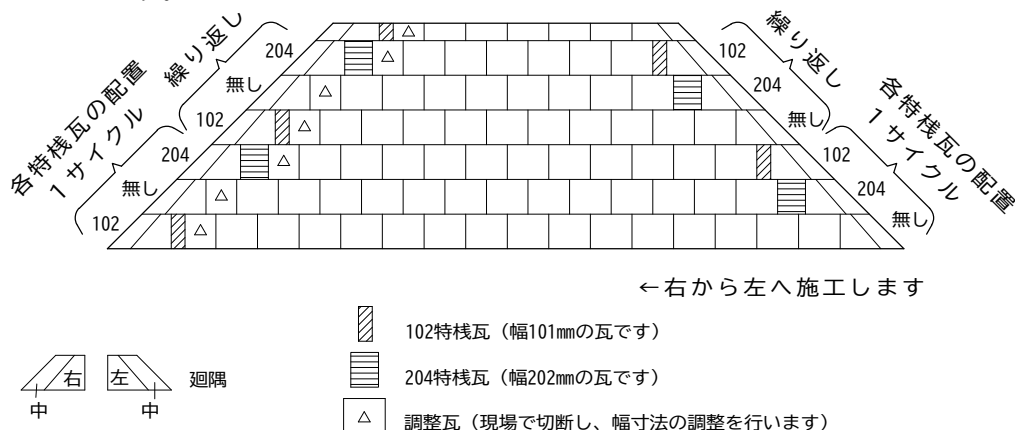
6. 寄棟 廻隅瓦の施工パターン 通常のスマートと寸法は違いますが施工パターンは同じです。

積算ルール（廻隅の施工パターン）

- ・屋根勾配毎に設定された流れ方向の割付ピッチ（次頁参照）を守ってください。
- ・瓦一体型太陽電池設置時には屋根勾配毎の流れ方向の割付ピッチが適用できず、280mmに固定されます。4.5寸勾配以外は下記施工パターンを適用できませんので注意してください。

<隅棟際の瓦施工パターン>

- ・隅棟際の瓦の割付は3段で1サイクルとなり、4段目以降はそのサイクルの繰り返しとなります。葺き終わりの2種類の特棧瓦（102、204）の配置パターンは、野地の割付によって変わります。各特棧瓦の配置パターンは「無し→204→102」「204→102→無し」「102→無し→204」のいずれかの繰り返しとなります。

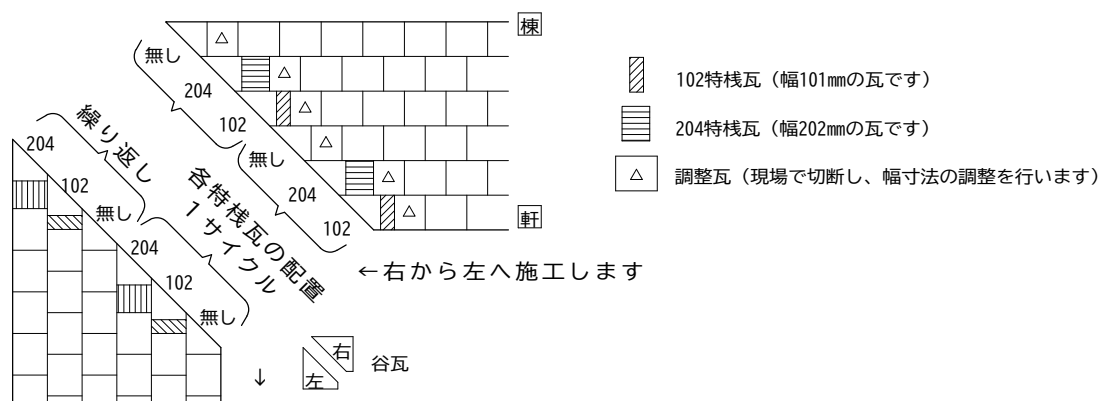


積算ルール（谷の施工パターン）

- ・谷際の瓦の割付は3段で1サイクルとなり、4段目以降はそのサイクルの繰り返しとなります。

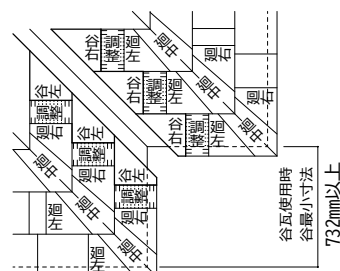
<2種類の特棧瓦を併用するパターン>

- 葺き終わりの2種類の特棧瓦（102、204）の配置パターンは、野地の割付によって変わります。各特棧瓦の配置パターンは「無し→102→204」「102→204→無し」「204→無し→102」のいずれかの繰り返しとなります。



<桁行の最小寸法：隅棟と谷>

- ・谷瓦を使用する際、隅棟と谷の間は732mm以上確保してください。



7. 寄棟 廻隅瓦の瓦割寸法 通常のスマートと寸法が異なりますので注意してください。

瓦割寸法

- ・野地板調整など瓦の割付をする場合は下記の寸法によって割付してください。

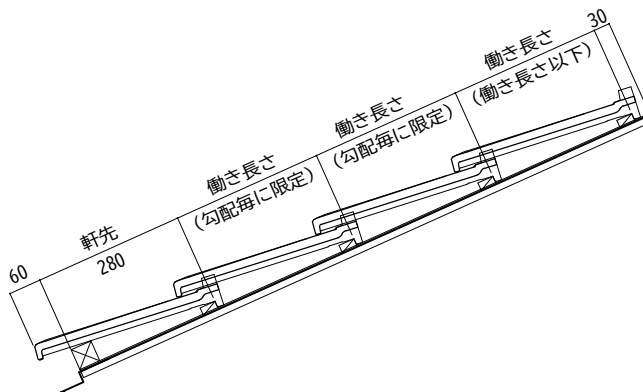
【流れ方向】

- ・廻隅瓦・谷瓦を使用する場合、働き長さは下表の通り、屋根勾配毎に決まっています。
 - ・野地寸法は軒先280mm（瓦の出60mmの場合）＋働き長さの倍数＋30mmで決めてください。
 - ・働き長さの標準値は280mmですが、260～285mmの調整が可能です。
- 切妻屋根（廻隅瓦・谷瓦を使用しない）の場合は範囲内で流れの瓦割付ができます。
- ・割付をしない場合は棟際の棧瓦を切断して調整してください。

【屋根勾配毎の働き長さ】 (単位mm)

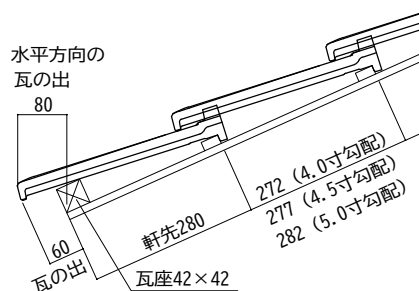
屋根勾配	4.0寸	4.5寸	5.0寸
働き長さ	272	277	282
軒先	280		

※廻隅瓦・谷瓦使用の場合、4寸、4.5寸、5寸勾配の働き長さは上記表を参照ください。

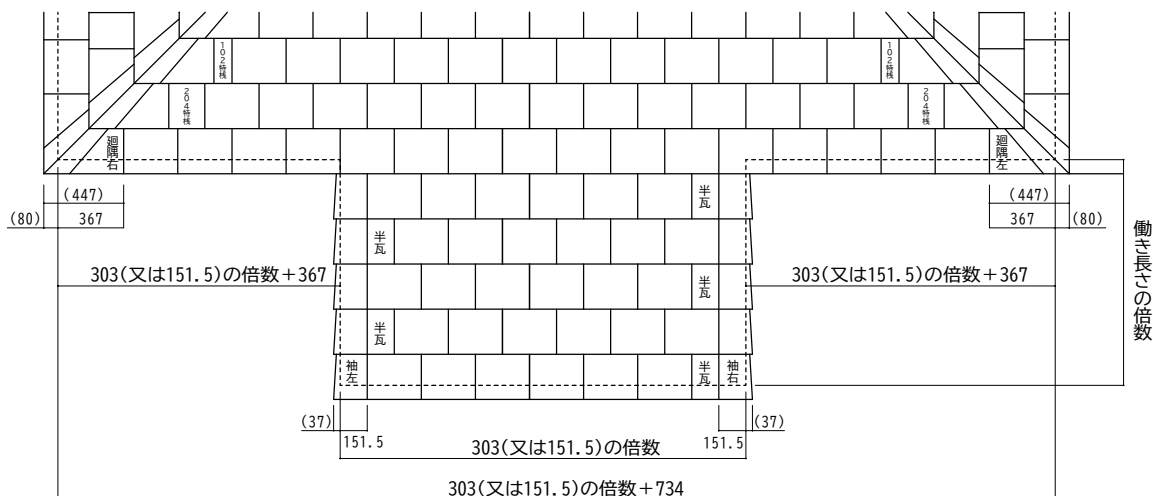


【すがり部：寄棟】

- ・瓦座42×42を使用し、軒先280mm（瓦の出60mm）の場合の瓦の割付です。
- ・瓦の出が変わる場合は注意してください。



- ・流れ方向は働き長さの倍数で決めてください。
- ・桁行方向は303mm（又は151.5mm）の倍数＋734mmで決めてください。
- ・働き幅の標準値は303mmですが、瓦割付をする場合、現物で寸法確認し割付を行ってください。
- ・軒先に特棧瓦を使用しない場合の割付です。

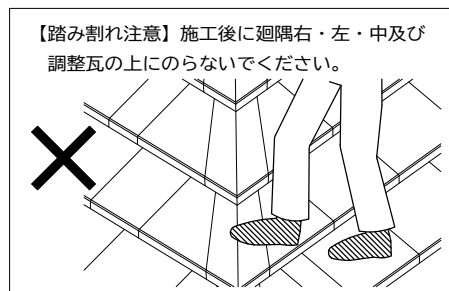
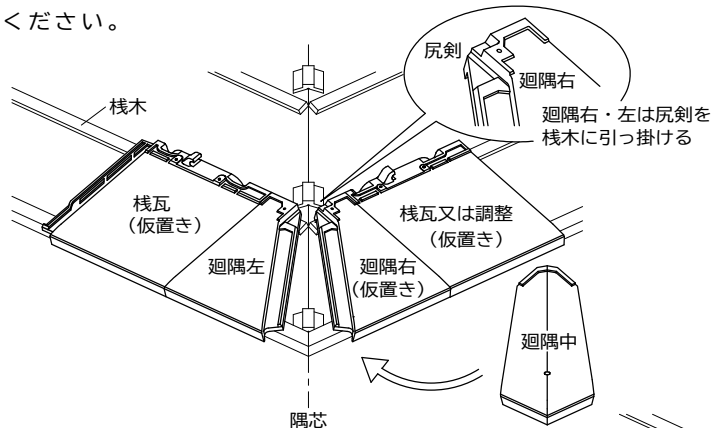


8. 寄棟 廻隅瓦の施工－2 通常のスマートと寸法が異なりますので注意してください。

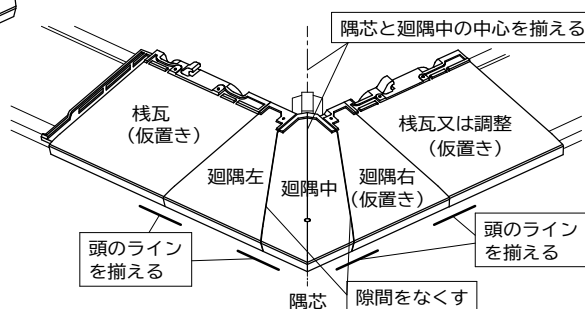
廻隅隅棟部－葺き始め（1 段目）

- ・廻隅右と廻隅左は必ず尻剣を棧木にしっかりと引っ掛けてください。

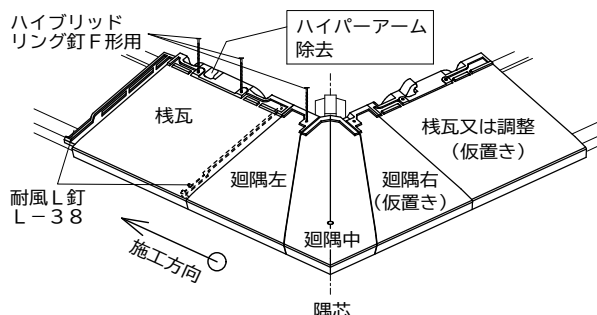
廻隅右・左の両隣に棧瓦（又は調整瓦）を仮置きし、廻隅中の中心を隅芯に合わせるように置いてください。



- ・廻隅右・左と廻隅中は、隙間がないようにし、仮置きした棧瓦（又は調整瓦）と頭のラインを揃えてください。（廻隅中の中心が隅芯からずれていると、頭のラインがそろわない場合がありますので、位置を確認してください。）

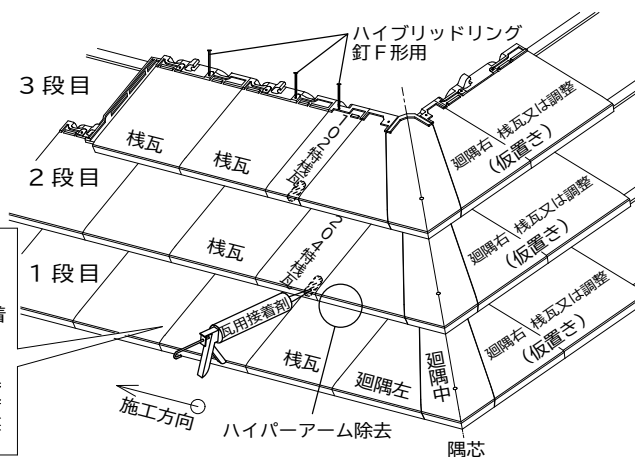
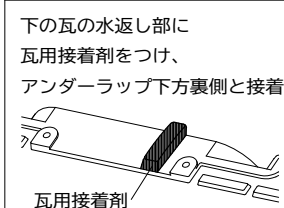
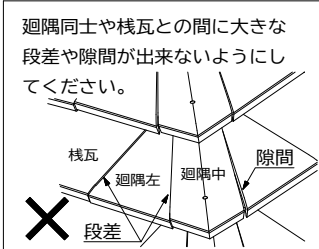


- ・位置決め後、廻隅左をハイブリッドリング釘 F 形用 1 本と耐風 L 釘 L-38 で固定してください。
- ・廻隅左のすぐ左の棧瓦はハイパーアームが 2 段目の廻隅左に干渉するため、除去してください。
- ・棧瓦をハイブリッドリング釘 F 形用 2 本と耐風 L 釘 L-38 で固定してください。



廻隅隅棟部－葺き始め（2 段目以降）

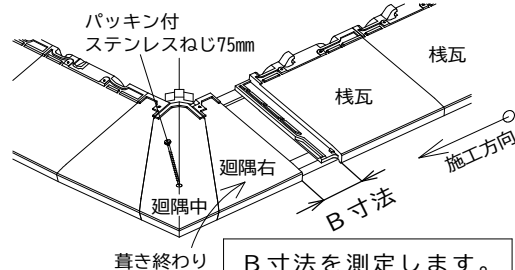
- ・2、3 段目も 1 段目と同様に廻隅右・左と廻隅中の頭ラインが揃うように置き、廻隅右と棧瓦（又は調整瓦）を仮置きし、位置決め後、施工してください。（1 段目の廻隅中と通りを合わせて施工してください。）
- ・2 段目の廻隅左の隣には 204 特棧瓦、3 段目の廻隅左の隣には 102 特棧瓦を施工してください。
- ・3 段を 1 サイクルとし、4 段目以降は 1～3 段目と同じ瓦配置で繰り返し瓦を施工してください。
- ・廻隅瓦、棧瓦、特棧瓦、調整瓦がハイパーアームに干渉する場合は、ハイパーアームを除去して、瓦用接着剤にて補強してください。（○印部分）
- ・ハイパーアームが掛からない廻隅瓦、特棧瓦は、瓦用接着剤で固定してください。



8. 寄棟 廻隅瓦の施工－3 通常のスマートと寸法が異なりますので注意してください。

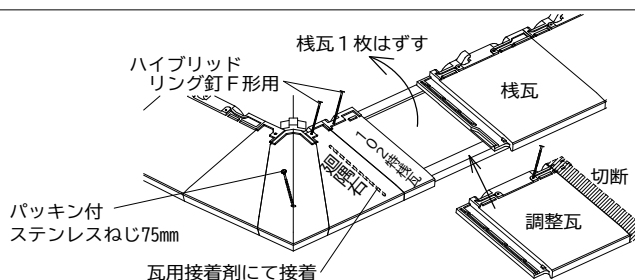
廻隅隅棟部－葺き終わり

- ・ 棧瓦を廻隅右まで施工し、廻隅右と棧瓦の隙間（B寸法）を測定してください。
- ・ 隙間（B寸法）に応じた施工方法は下図の通りです。
- ・ 調整瓦は頭部・尻部の2箇所の寸法を測定し、切断します。瓦や施工時の寸法誤差によって毎段寸法が若干変化するので、寸法測定は1段目から最終段までの全段で行ってください。
- ・ 隅棟際の102特棧瓦・204特棧瓦の配置は「無し→204→102」「204→102→無し」「102→無し→204」のいずれかの繰り返しとなります。
- ・ 廻隅右、特棧瓦、調整瓦はハイブリッドリング釘F形用で固定してください。
- ・ 廻隅右のオーバーラップ裏面と右隣の瓦のアンダーラップを瓦用接着剤にて接着してください。
- ・ 廻隅中はパッキン付ステンレスねじ75mm1本で固定してください。



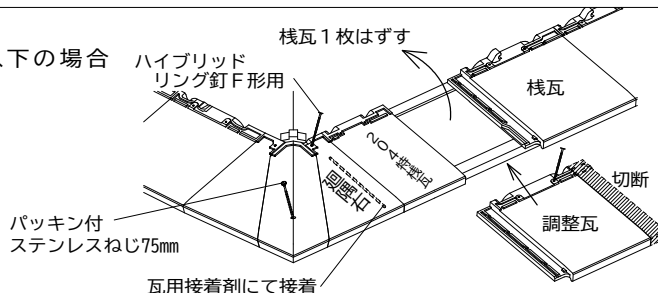
- ・ B寸法：101mm以下の場合

棧瓦を1枚はずし、
102特棧瓦＋調整瓦
で施工してください



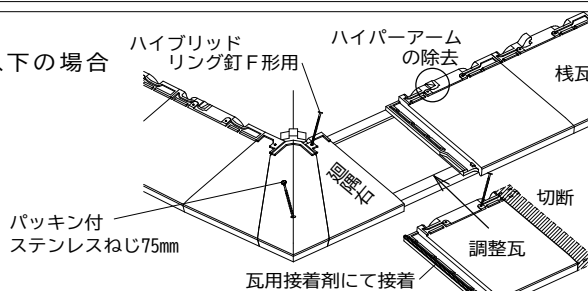
- ・ B寸法：101mmを超え202mm以下の場合

棧瓦を1枚はずし、
204特棧瓦＋調整瓦
で施工してください

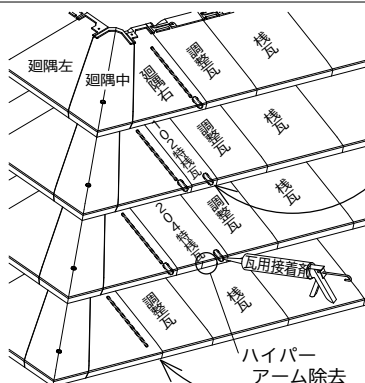


- ・ B寸法：202mmを超え303mm以下の場合

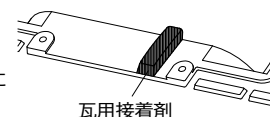
調整瓦で施工してください



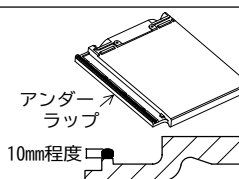
- ・ 廻隅瓦、棧瓦、特棧瓦、調整瓦がハイパーアームに干渉する場合は、ハイパーアームを除去して、瓦用接着剤にて補強してください。（○印部分）
- ・ ハイパーアームが掛からない調整瓦、特棧瓦、棧瓦は、瓦用接着剤で固定してください。



ハイパーアームが掛からない瓦は、下の瓦の水返し部に瓦用接着剤をつけ、アンダーラップ下方裏側と接着



廻隅右と右隣瓦の
接着量目安
高さ10mm程度、
アンダーラップ長さ分
10mm程度



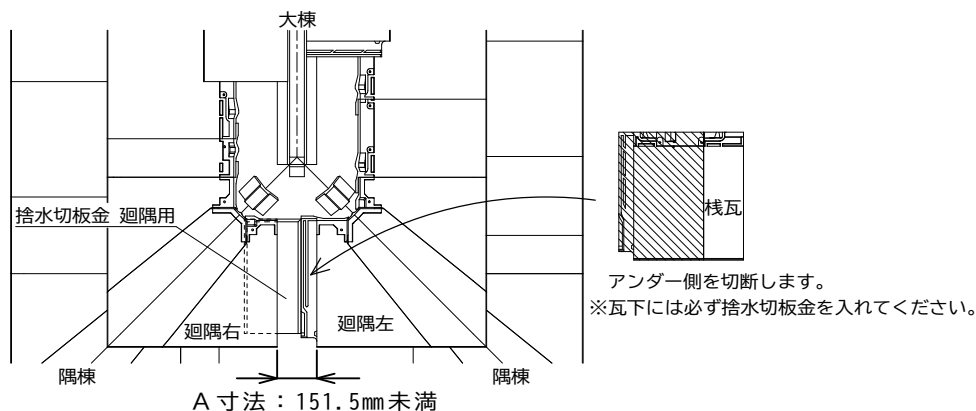
8. 寄棟 廻隅瓦の施工－4 通常のスマートと寸法が異なりますので注意してください。

廻隅大棟部－棟際の施工（寄棟）

棟際は野地の桁行き寸法が小さくなり、102特棧瓦・204特棧瓦の配置パターンが適応できなくなる為、以下のように施工してください。

- ・廻隅左～廻隅右の寸法（A寸法）を測定してください。
- ・以下のパターンに従って棧瓦、102特棧瓦、204特棧瓦、調整瓦にて施工してください。

【パターン①】 A寸法が 151.5mm未満：棧瓦を切断

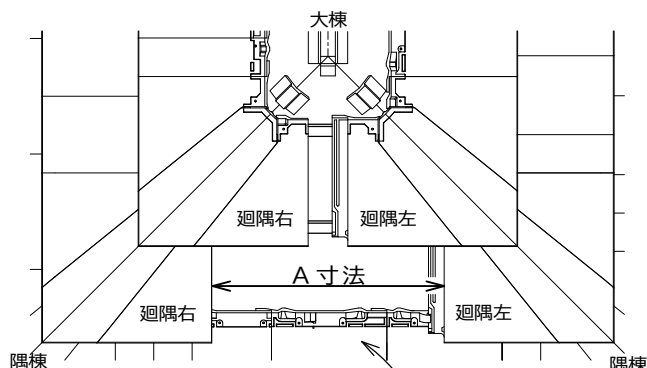


【パターン②】 A寸法が 151.5～303mm：調整瓦を切断

【パターン③】 A寸法が 304～353mm：102特棧瓦＋調整瓦を切断（※）

【パターン④】 A寸法が 353.5～505mm：204特棧瓦＋調整瓦を切断

【パターン⑤】 A寸法が 506～606mm：棧瓦＋調整瓦を切断

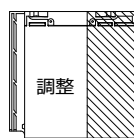


A寸法：151.5～303mm

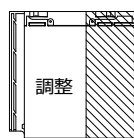
A寸法：304～353mm（※）

A寸法：353.5～505mm

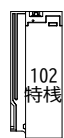
A寸法：506～606mm



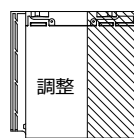
151.5～303



切断



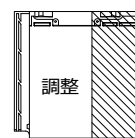
101



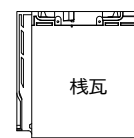
切断



202



切断



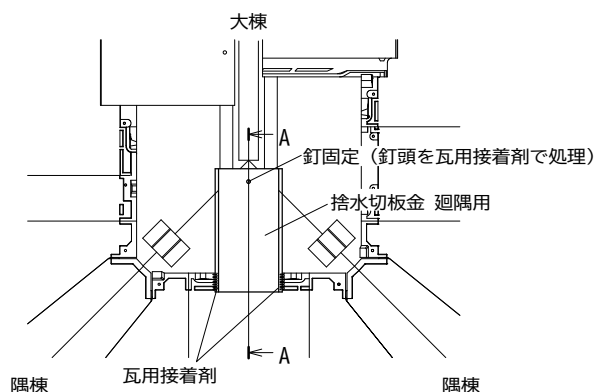
303

※パターン③の102特棧瓦＋調整瓦を切断の場合、404mmまで施工が可能です。

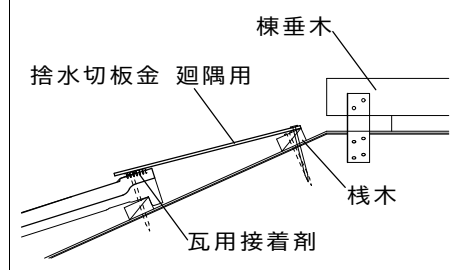
8. 寄棟 廻隅瓦の施工－5

廻隅大棟部－棟際最上段の施工

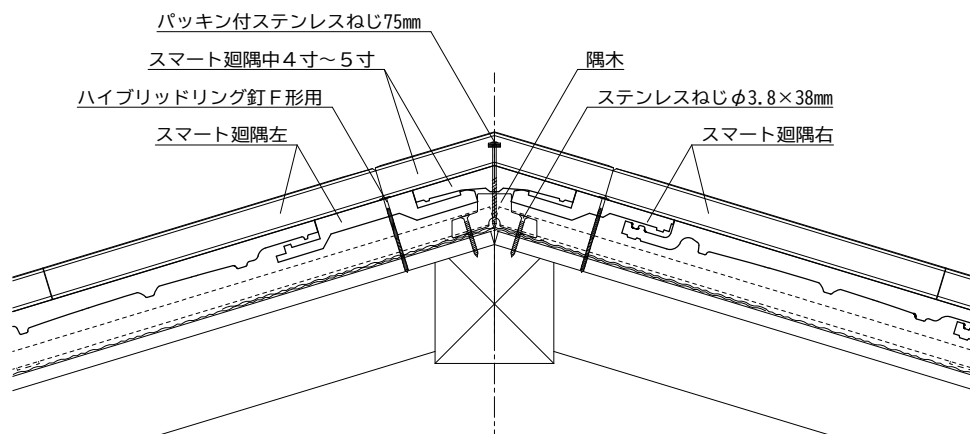
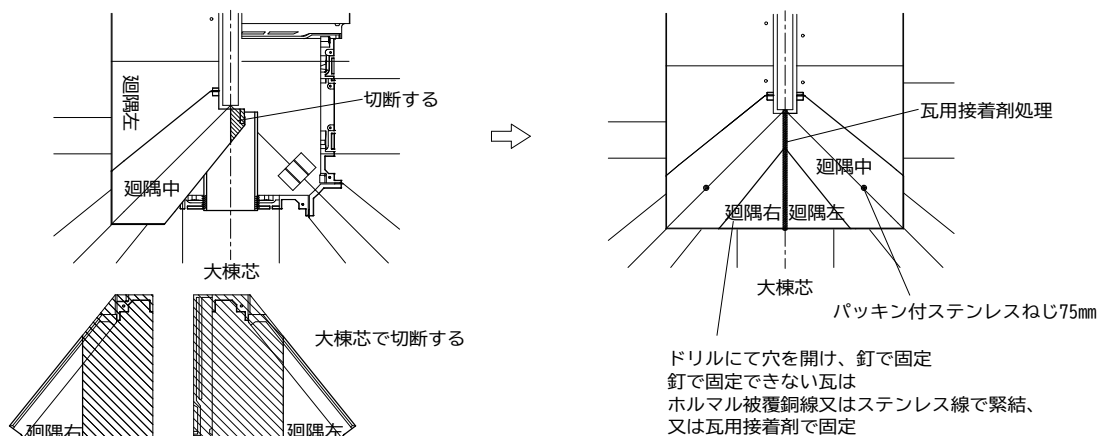
- ・棟際2段目の瓦と桟木の上に捨水切板金 廻隅用を釘と瓦用接着剤で固定してください。



【A断面図】



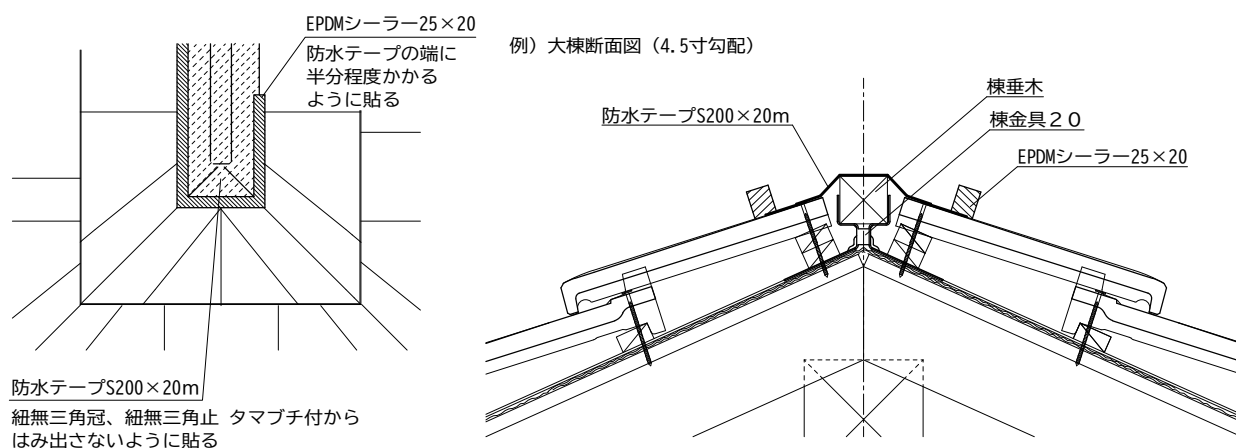
- ・廻隅右、左、中は棟大芯に合わせて切断してください。
- ・切断後、釘で固定できない瓦はホルマル被覆銅線又はステンレス線で緊結するか、瓦用接着剤で固定してください。
- ・廻隅右、左、中の合わせ目は上部から瓦用接着剤で処理してください。



8. 寄棟 廻隅瓦の施工－6 通常のスマートと冠瓦が異なりますので注意してください。

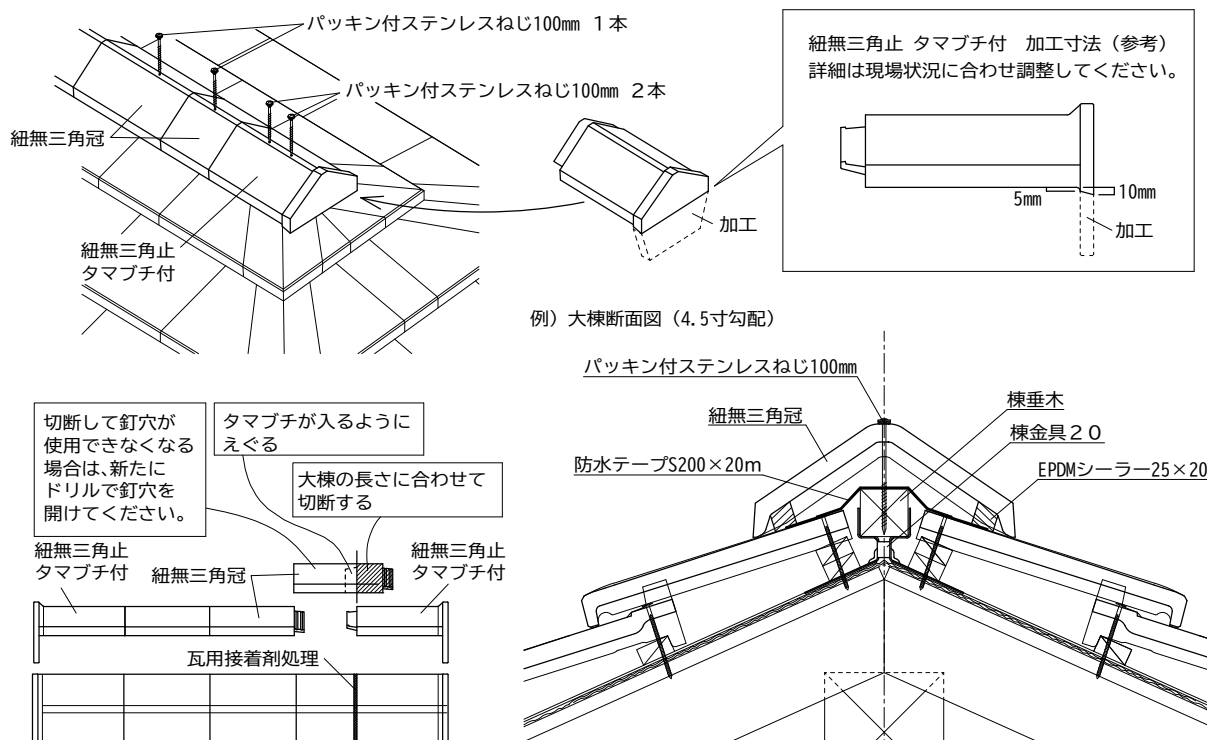
廻隅大棟部－防水テープ・シーラーの取り付け

- ・ 棧瓦を棟際まで施工してください。
- ・ 棟金具 20 を使用してください。
- ・ 棟垂木の上に防水テープS200×20mを貼ってください。後で施工する紐無三角冠や紐無三角止 タマブチ付からはみ出さない位置に貼ってください。
- ・ 防水テープの端に半分程度かかるように、EPDMシーラー25×20を貼ってください。
- ・ 湿式（シリコン入南蛮しっくい）での施工も可能です。



廻隅大棟部－冠瓦の施工

- ・ 紐無三角冠は棧瓦でレベルを取ります、冠瓦の通りに注意して施工してください。
- ・ 紐無三角冠は棟芯に合わせて並べ、パッキン付ステンレスねじ100mm1本で固定してください。
- ・ 切断した紐無三角冠も、パッキン付ステンレスねじ100mm1本で固定してください。
- ・ 大棟端部には紐無三角止 タマブチ付を使用し、下図のように瓦を加工して、パッキン付ステンレスねじ100mm2本で固定してください。
- ・ 反対側の紐無三角止 タマブチ付は、紐無三角冠のタマブチを切断し、内側をえぐり、紐無三角止 タマブチ付のタマブチが入るように施工してください。

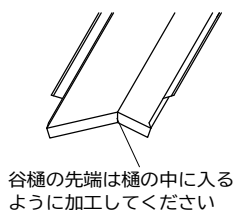


9. 寄棟 谷瓦の施工 通常のスマートと寸法が異なりますが、施工方法は同じです。

谷樋の施工（谷瓦・棧瓦切断共通）

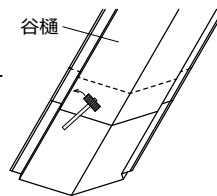
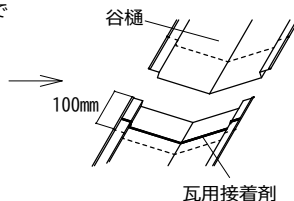
- ・谷樋固定用の棧木を施工し、谷樋をステンレススクリーで固定してください。
- ・谷樋の軒先部分は樋の中に入るように加工し、重なり部は100mm重ね瓦用接着剤で処理してください。

〔谷樋 軒先部〕



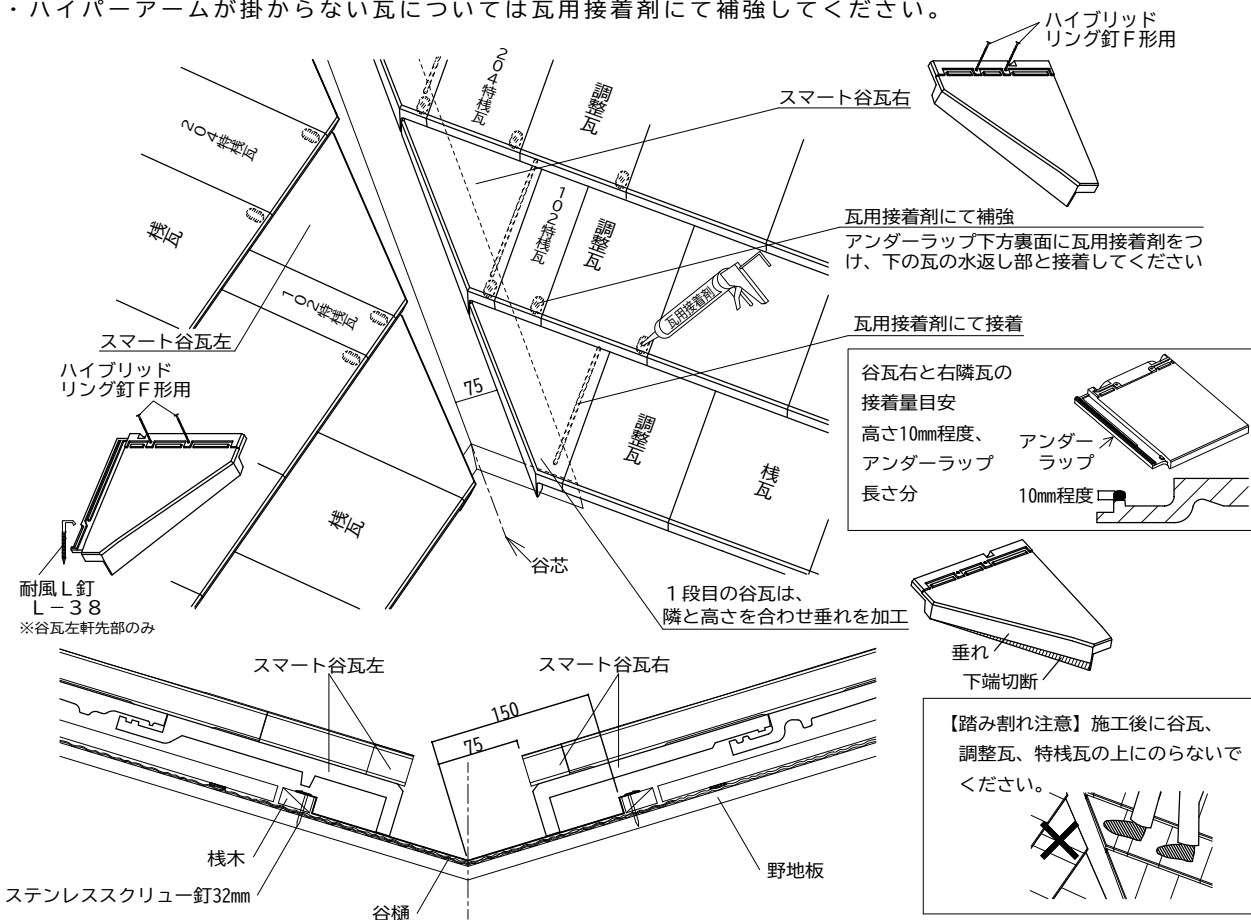
〔谷樋 重なり部〕

重なり部は瓦用接着剤で処理してください。



谷瓦の施工

- ・谷瓦の対応勾配は4寸～5寸です。（4寸未満、5.1寸以上は、棧瓦切断で谷部を施工してください。）
- ・谷瓦を使用する場合は、必ず屋根勾配毎の働き長さにて棧木を取り付けてください。（P. 7. 8参照）
- ・谷瓦は谷芯から75mmの位置に施工してください。
- ・谷瓦はハイブリッドリング釘F形用2ヶ所で固定してください。
- ・軒先の谷瓦左は耐風L釘 L-38を追加し、固定してください。
- ・軒先1段目の谷瓦は、隣の瓦と高さがそろるように垂れを加工してください。
- ・谷瓦右のオーバーラップ裏面と、右隣の瓦のアンダーラップを瓦用接着剤にて接着してください。
- ・ハイパーアームが掛からない瓦については瓦用接着剤にて補強してください。

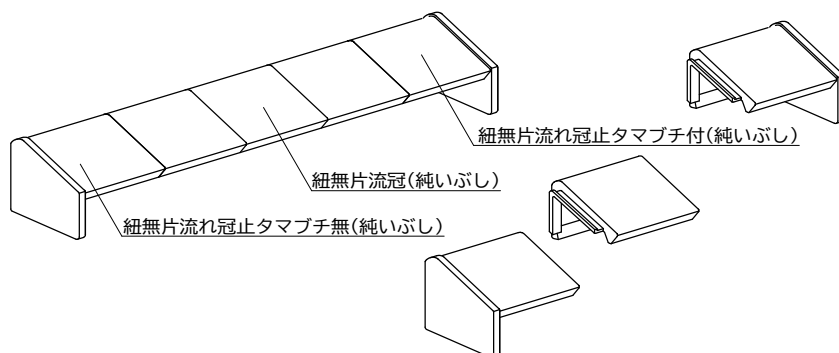


この施工要領書は抜粋ですので、細かな施工方法、注意等については標準のスマート施工要領書を参照してください。
ただし、棧瓦、役瓦、瓦割付の寸法が異なりますので注意してください。

10. 片流の納まり

製品について

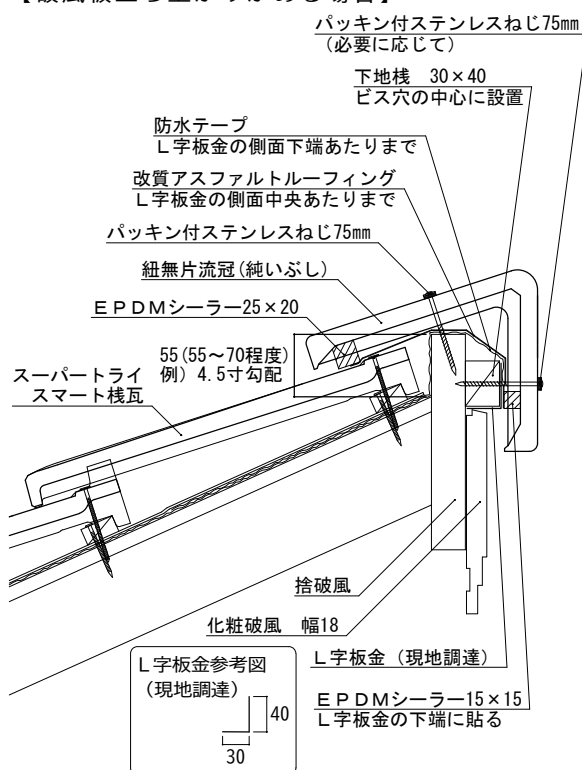
- ・紐無片流冠(純いぶし)を使用します。冠、止は下記図のように配置してください。
- ・紐無片流れ冠止には、タマブチ付・タマブチ無がありますので注意して使用してください。



片流の納まり

- ・下図を参考に、現場状況に合わせ施工をしてください。
- ・破風板の立ち上がりがある場合、下地枠を側面のビス穴位置に取り付け、紐無片流冠と化粧破風に重なりが出来るように施工してください。
- ・破風板の立ち上がりがない場合、棟垂木を使用し、カバー鋼板（現地調達）の取り付けを推奨します。カバー鋼板に重なるように化粧破風の取付位置の検討を行ってください。重なりは状況に応じて決定してください。
- ・緩勾配の場合、冠と化粧破風の重なりが少なくなります。下地が露出しないように注意してください。

【破風板立ち上がりがある場合】



【破風板立ち上がりがない場合】

